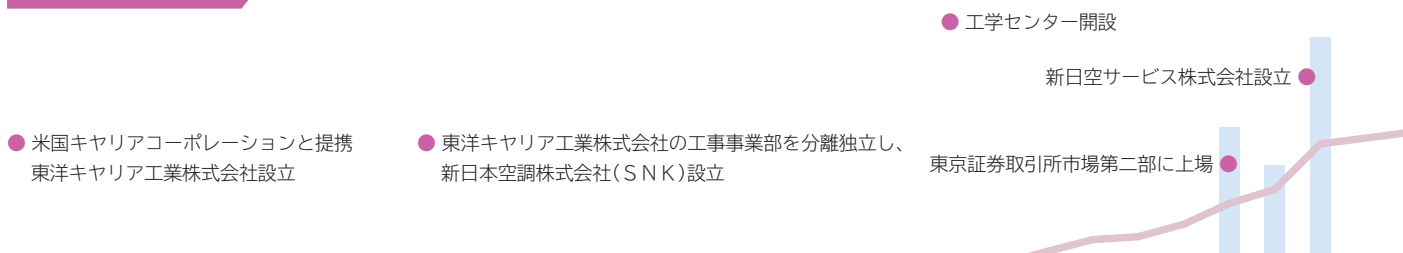


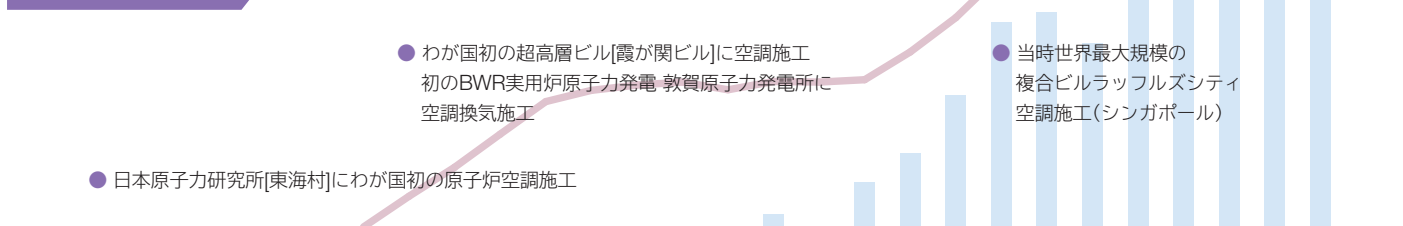
# SNK成長の歴史

新日本空調は、昭和5年(1930年)に当社の前身である「東洋キャリア工業」が誕生して以来、「技術のキャリア」と呼ばれ、世界を席卷した高い技術とパイオニア精神は現在まで脈々と受け継がれております。昭和44年(1969年)に当社は、東洋キャリア工業の工事業部から分離独立して、「新日本空調」としてスタートしました。当社グループは、『100年企業』として更なる企業価値向上へ向けた、ESG(環境、社会、ガバナンス)経営、働き方改革、デジタル化推進への取り組みを「覚悟と信念」を持って推進し、「お客様、社会、地球環境に貢献する企業グループ」を目指します。

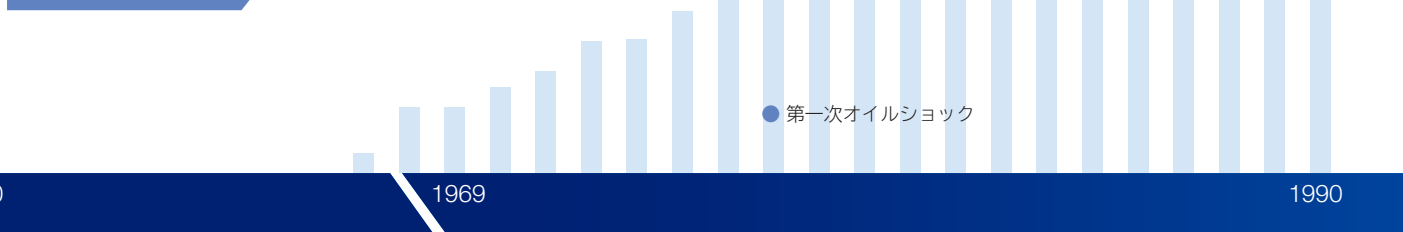
## 沿革



## 施工実績・技術開発



## 社会動向



1930

1969

1990

## 創業期

### 空調のパイオニアとして日本の産業興隆に貢献

新日本空調の歴史は20世紀の始めに幕を開けた米国キャリア社に遡る。「技術のキャリア」と呼ばれ、世界を席卷した高い技術力とパイオニア精神を受け継ぎ、高温多湿な日本に当時なかった「空調」という概念を持ち込み、工業の発展や保健衛生上の必要性を訴えた。

日本初の超高層ビル空調をはじめ、地域冷暖房、原子力施設、クリーンルームのパイオニアとして、日本の産業興隆期において重要な役割を果たす。



写真提供:三井不動産㈱

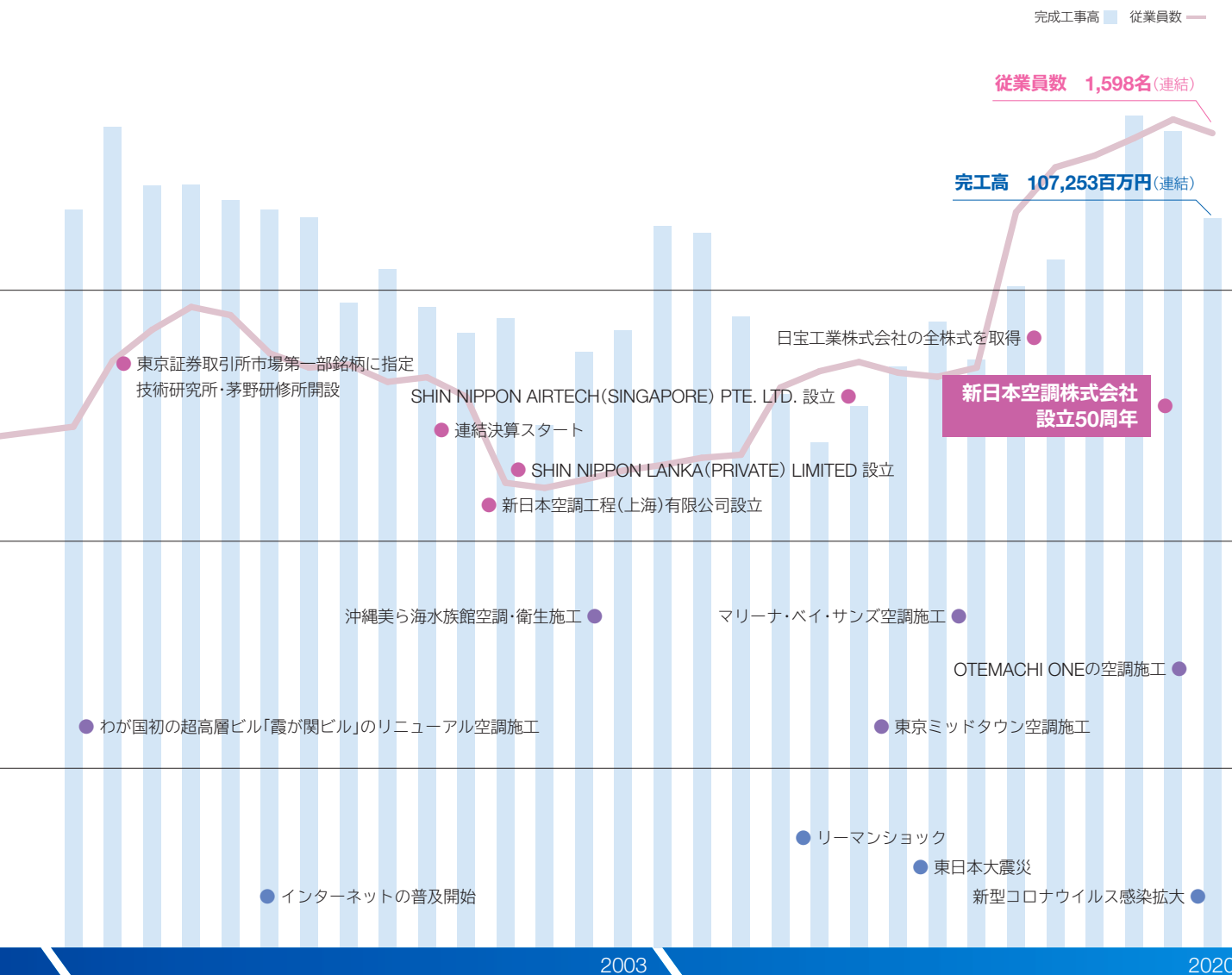
## 分離独立から発展～バブル期

### 新日本空調の設立、リニューアル分野の醸成

工事業部門の独立に適う実績を受け、経営判断により工事業部門を分離・独立し、新日本空調株式会社を設立。高度経済成長による建設ラッシュを背景に順調に業績を拡大する。バブル期には過去最高の業績を達成。上場の準備が整う。

さらに空調設備の保守メンテナンス、リニューアルに注力し、リニューアル工事のノウハウを築き上げた。



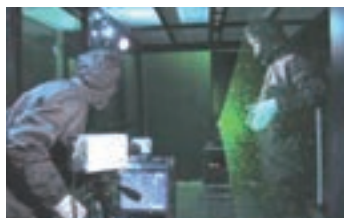


## 上場後の大競争時代

### 空気質の追求 (クリーンルームの本格化と可視化開発)

1991年のバブル崩壊による景気低迷期において、建設業も冬の時代に。赤字決算やリストラの敢行を経験。そんな中、新分野へチャレンジ。東証1部に上場をきっかけとして設立した技術研究所(現 技術開発研究所)において、微粒子可視化技術を開発。

1995年からのインターネットの普及をきっかけに、世界的に半導体ニーズが増加。クリーンルームの品質向上に寄与する微粒子可視化技術が普及する。



## 経営改革の推進～新たな企業価値の創造へ

### グループ経営による ワンストップソリューションの推進

経営改革を推進。東日本大震災をきっかけに省エネと防災意識が広がる。新日本空調としても省エネ技術の開発に注力。熱源最適制御システム(EnergyQuest)やAir-Lo3(エアロスリー)、柔ワイヤ工法等の実績を作る。併せて、原子力空調に携わるものとして、復興支援を継続。こうした活動はレジリエンス強化に貢献している。

2020年からの新型コロナウイルス感染拡大においては、当社の微粒子可視化技術に再度注目が集まる。その結果、医療・音楽等の分野で貢献し、新しい生活様式の取り組みに寄与している。

